

有限会社四季の器あさい

代表者 浅井 康志

資本金 300万円

住 所 佐賀県西松浦郡有田町岩谷川内1-3-6

設立年月 平成8年7月

連絡先 TEL 0955-43-4881 FAX 0955-43-4882

従業員 6人

URL <http://www.sikiasai.net>

顧客ニーズ(短納期・低コスト)に対応するためのハイブリッド窯の導入

焼き物業界においては、近年、まとまった数の受注が減り、小ロットでの受注が増加しています。さらに、和洋問わず使える器を求められるなど、お客様の要望が細分化しています。加えて、スピードが強く求められるようになってきました。窯元では一度に多くの器を焼成するため、一定量以上の数量がそろわないと焼成を始めないことから、有田焼の発注から納品まで1ヶ月かかるのが通例です。しかし、1ヶ月間も待っていただけるケースは少なく、窯元に何度も催促した末に顧客に納品することが常態となっていました。当社では多様化・高度化する顧客ニーズに対応するため、「小ロット・多品種・短納期」に対応できる体制づくりに挑みました。



取締役副社長
かわはら よしひろ
川原 好博



本事業への取り組みの経緯

取引先の生地屋・窯元の廃業や高齢化が進む中、当社では少しずつ内製化を進めてきました。生地の製造・自社設備による焼成・品質管理を自社内で行い出荷してきましたが、焼成については依然として域内の窯元への依存度が高く、また、従来の設備ではお客様のニーズにお応えできないという課題がありました。そんな中、2016年の有田焼創業400年記念事業に向けて多忙になった取引先の窯元に発注できなくなりました。新たな窯元を探すことは難しかったため、自社内に焼成機を導入することを決意し、ガスとマイクロ波の両方を使って陶磁器を焼き上げる複合窯(ハイブリッド窯)の導入を検討しました。



実施内容(取り組みの詳細)

ハイブリッド窯とガス窯の比較を行ったところ、ハイブリッド窯で焼いたものは吸水率が低く、生地が焼き締まって水分を吸わず、しっかり結合しているために強度が高いことがわかりました。また、ハイブリッド窯は燃料代がガス窯の4分の1です。さらに焼き始めから冷まして窯から出すまでの時間はガス窯が40時間のところ10時間で済み、自社内で焼き上げることで工程が円滑になることを考慮すると製造時間は7分の1に短縮されます。その上、温室効果ガス(CO2)排出量を3.5分の1にまで低減することができることも判明しました。これらの検証の結果、ハイブリッド窯の導入を決定しました。



Q1. 御社について教えてください。

A. 当社は有田焼の産地・有田にあり、全国の飲食店、冠婚葬祭業などに販売を行っています。

Q2. 今後の課題はありますか？

A. 有田焼全体における課題ですが、近年の様々な原材料価格の高騰、他産地との価格競争にさらされており、付加価値の創出が課題になっています。

Q3. 御社の社是は？

A. 基礎がしっかりした商品づくり、軸のぶれない商品づくりを心がけています。

Q4. 導入した機械の特徴は？

A. 通常、焼成に掛かる時間が、16～20時間くらい掛かるところを、5～6時間ほどに短縮でき、その分焼成に掛かる燃料代を抑えられます。



取り組み成果・波及効果

ハイブリッド窯の導入によって、短納期・低コストという顧客ニーズに対応する生産体制を構築する目処が立ちました。特に納期の面でメリットが大きく、1～2日で焼き上げることが可能なので、在庫がない状態でもすぐに顧客に納品することが実現しました。これによって、欠品が発生しがちな他の産地や外国産よりも厚い信頼を得られるようになり、これまで受注できなかった大口案件の受注が増えました。さらに、試作品の開発においても外注する必要がなくなり、商品開発が短時間でできるようになりました。



LOOK

今後の展望・活動予定

当社は旅館などの飲食店を対象とした業務用割烹食器を中心に販売していますが、今後は有田焼を手頃な価格で提供することで有田焼の購買層を広げていきたいと考えています。ネットショップや店舗販売で個人客向けの商品も展開していく予定です。当社オリジナルの遠赤外線の出る素材を利用した土鍋や陶板・植木鉢等の製造、女性向け化粧ボトルの開発などに取り組んでいます。一般消費者の需要を掘り起こすと共にニーズをつかみ、新商品の開発・販路拡大を進めていきたいと思ひます。また、ハイブリッド窯の特性を利用した新しい釉薬を開発し、今までにない風合いの焼物の制作にも取り掛かることも計画しています。